

令和6年度 リーディングDXスクール実践校の取り組み（実践I）

習志野市立香澄小学校

テーマ：場面に応じた個々の考えを深めるための話し合い活動と共有化の充実

実践I 情報モラル教育（総合的な学習）における取り組み

【ねらい】 一人一台タブレット端末を活用し、SNSによる他者とのコミュニケーションの仕方やインターネットの仕組みについて考える

【対象】 小学校5・6年生児童

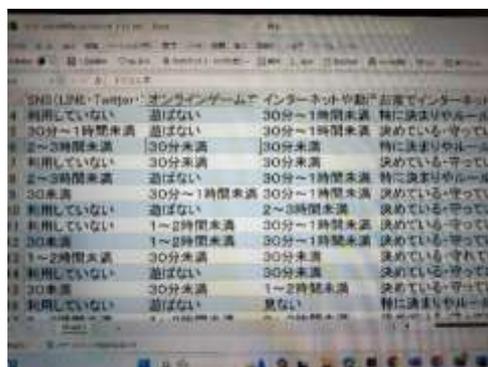
- 【タブレット端末の活用】
- ① Forms（データ集計アプリ）を活用したインターネット利用状況におけるアンケート調査と集計
 - ② YouTube・Forms を活用した SNS におけるコミュニケーションの仕方についての学び合い
 - ③ PowerPoint を活用し、インターネット利用上の犯罪について学ぶ
 - ④ Forms を活用した学習の振り返り

【実践】

- ① Forms（データ集計アプリ）を活用したインターネット利用状況のアンケート調査と集計
- ・授業の事前に Forms を活用したインターネットの利用状況に関するアンケート調査を行い、集計結果をまとめた。導入時では、その集計結果を児童に分かりやすく伝えるために、資料を作成して黒板に掲示した。※モニターに映すと他の画像を映した時に、消えて残らない。



写真① Forms によるアンケート調査



写真② Forms によるアンケート集計

Forms の活用により、アンケート調査を効率よく実施したり、集計したりすることができた。授業の導入時では、その集計結果をより把握させるために資料を作成し、黒板に掲示した。モニターでは他の画像等を映すため、集計結果が児童の視覚や意識から離れてしまうと考えた。



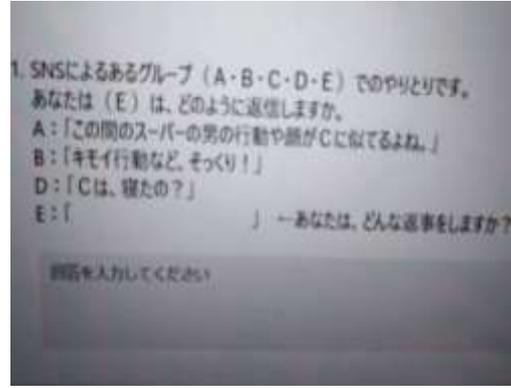
写真③ 黒板に集計結果を掲示

② YouTube・Forms を活用した SNS におけるコミュニケーションにおける学び合い

- ・近年の情報化社会における「個人情報の流出」や「誹謗・中傷」等の問題に関する啓発動画(YouTube)を視聴し、本時の課題について確認した。
- ・友人や知人から SNS を通して「個人情報の流出」や「誹謗・中傷」等に関連した書き込みがあった際の対応(返事)について考え、Forms を活用して児童一人一人が投稿した。



写真① ネット犯罪防止啓発動画の視聴



写真② 誹謗・中傷を促す書き込み(自作)



写真③ 考えた回答を書き込み・返信

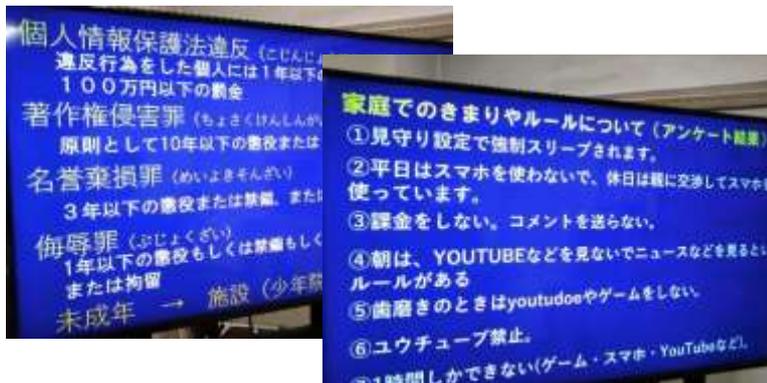


写真④ 個々の考えを全体で共有

個々の考えた投稿について、Forms で集計し、画面を通して全体で共有を図ることができた。互いの考えを知ることで、SNS 上でのコミュニケーションの仕方について深く学ぶことができた。

③ Powerpoint を活用し、インターネット上で生じる犯罪や家庭におけるルールについて話し合う

- ・「個人情報の流出」や「誹謗・中傷」などの行為は犯罪になることや、自分や他人の人生や命を奪ってしまうこと等について話し合った。

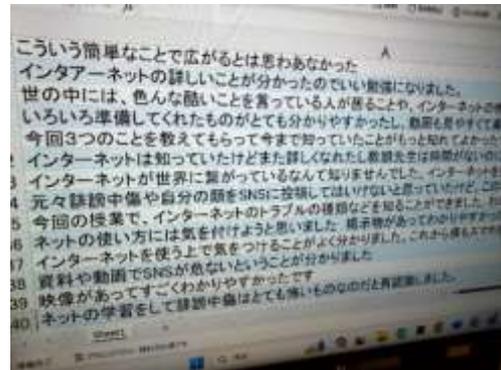


写真⑤ ネット上の犯罪や家庭でのルールを全体で確認

Powerpoint で編集した資料をモニターに映し、全体で確認した。ネット上に潜む犯罪やその重さ、さらにネットを利用する際のルールの大切さについて、学ぶことができた。

④ Forms を活用した学習の振り返り

- ・本時の学習を通して、学んだことや気付いたことを Forms を活用し、書き込んで送信できるようにした。さらに、個々の振り返りをモニターに映し、学級全体で共有した。



写真① 書き込んだ振り返りを全体で共有

書き込んだ振り返りをモニターに映し、全体で共有を図ったことで、学びを友達と比較することができた。書くことが苦手な児童も意欲的に振り返りを書き込んでいる様子が見られた。

【成果と課題】

- Forms で集計した事前のアンケート結果を黒板に掲示したことにより、学級の実態を共有しながら本時のねらいに繋げることができた。
- 児童が考えた投稿内容をエクセル形式で一覧にしたことにより、個々の考え方の違いを明確に提示することができた。
- 愛媛県警が作成した YouTube の「ネット上での悪口被害」の啓発動画を視聴させたことにより、多くの児童が動画内容を把握し、問題意識をもって学習に取り組むことができた。
- 個々に届いた中傷メールに対して、返信文を考え、実際に投稿したことで、本時で学んだことをすぐに実践として生かせるように工夫したのは効果的であった。
- 個々の投稿内容を確認し、相手の気持ちを考えた投稿内容にするための配慮が必要であることを全体で共有する等、SNS 上でのコミュニケーションの仕方について深く学ぶことができた。
- 学習の振り返りを Forms で集計したことにより、本時の学習の評価として生かすことができた。
- 学習中、児童のタブレット端末の画面が絶えず開いていると、学習に関係のないことをしてしまったり、落としてしまったりすることが考えられるので、使用しない時は閉じさせることも必要であると感じた。
- 一人一台タブレット端末の活用を強く意識したため、児童が学習内容をノートへ記録する機会を設けることができなかった。タブレット端末を活用する際の授業づくりでは、効果的なノート指導との授業構成について、よく吟味する必要がある。